

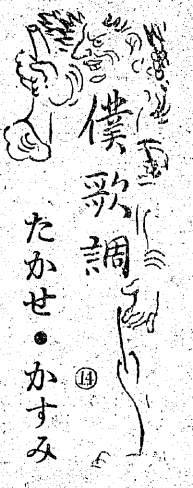
日刊  
**磐城日日新聞**  
発行所 磐城日日新聞社  
社址 小名浜町新川五丁目  
電話 31565  
代表取締役 高瀬芳郎  
編集長 高瀬芳郎  
印刷 高瀬芳郎

### 決意に燃えている

小名浜町長 水野政次郎

### 年頭の所感

昭和二十六年の年頭に輝かしい年頭に輝かぬ小名浜二万七千町民の各位ともに出迎いたし、新年を喜びたいと存じます。願ひれば昨年一月皆様の絶大な御支援を得て町政をお預りしてより早や一年になんなんとしております。この間町政の全般にわたる不徳なる私をして大過なく勤めさせて戴きました。事は、これ一重に皆様の御協力による賜と衷心より深く感謝致しております。私が町政に對し一年生となつて出逢してより今日まで、



### 野良犬の殺人事件

大阪府では小学校一年生の少女が野良犬に食われ、惨死したという珍事件があつた、今までの殺人事件では出刃と刺身庖丁で三百ヶ所余りの斬り傷があつたのが傷害個所の最も多かつた事件だが、このときは五匹の犬がよつてたかつて千ヶ所以上も傷を與えているので恐らく全国でも最初の珍事件で

モノサシ  
マカリス  
ハカリ  
体温計  
小名浜町  
衛生堂  
電話 147番

どうも町民の皆様におかれましては、町政の発展と町民各位の福利増進を念願として、鋭意町政に努力して、決意に燃えている。私共は、皆様の御協力をお願いいたします。一段の御協力を御願いたすに幸多き新年を迎えたいと存じます。年頭に際し皆様の御健康をお祈り致します。

【俳句】  
湯本 芳賀 築城  
初日の出まぶしく眺む翁  
さんの又殖えておる眉の  
白毛が  
小名浜町新川十二  
作山 明

### 納税の完璧を期す

仙台國稅局長 黒金泰美

本年の納税を見ても、事柄は、なかなか難かしい。特需景気の波に乘らぬ東北の所得は、や、固定的なものと考えられる。このことは、別言すると、相対的には減少するといふ事である。したがって、農業を基礎とする東北の税は、経済界の波よりも天候如何にかつて、昭和二十五年は、税制に大きな改正が行はれて、国税は軽減された。一、二の例をとれば、申告所得

### 竹の杖 將軍様さえ恐れ た犬だ人を噛むのも無禮講

犬は人間の敵か、あり、いわば世界新記録を樹立したことになるが、吠えているのは人間ばかりではなく、野良犬だつて腹が減つたら人間だつてと、容赦はしないと挑戦して来た。人間と畜生と、どちらが強いかわからない。弱肉強食も結局窮鼠却つて猫を噛むと全様家なき人々が動物園や防空壕に住み、喪家の犬が人を喰う世はさかさまの

### 短歌

選者 会田 亮

【天】  
あま玉の年の始めの生け花は我が庭すみの梅一枝

### 俳句

選者 小濱常司

【天】  
湯本町東區一九ノ九  
猪俣 清

### 地

選者 吉田 幸彌

【地】  
妻と居て妻と語らず歳暮  
小名浜町林ノ上  
吉田 幸彌

### 入選発表

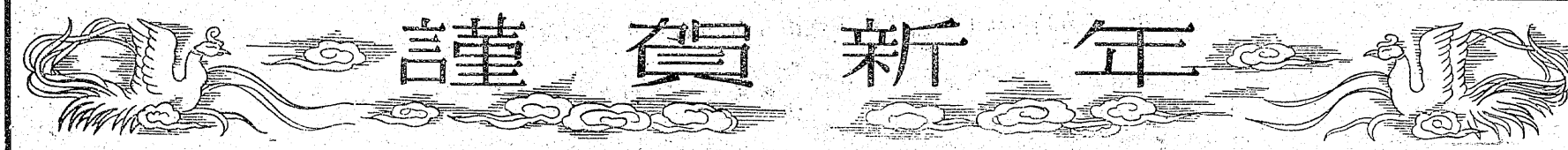
本社 短歌俳句

【天】  
若水へ雨滴の輪波重ねけ  
小名浜町候所 海野輝雄  
小名浜町長 會田亮先生と  
小名浜町第二小学校教頭、  
小濱常司先生にお願ひし  
ました。尚入選者は五名  
の予定でしたが、該当者が  
いないので、天、地、人  
の三名にしましたので御  
承諾願ひます。

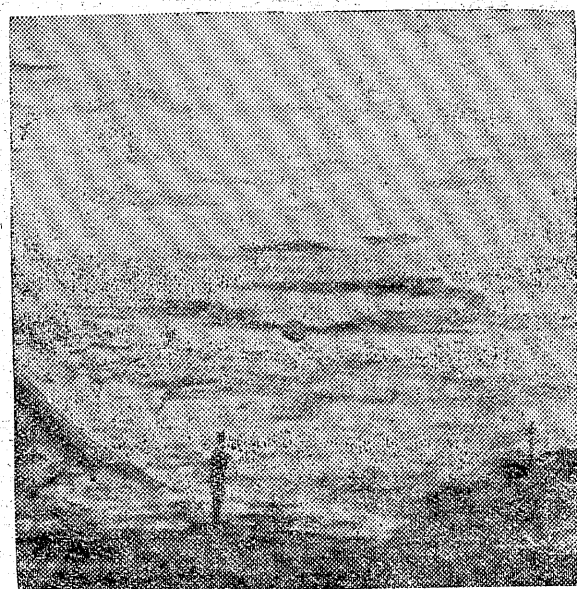
### 伝染病と人間の

格闘

かつて、長崎港外の大島  
崎戸兩嶺に麻疹チフスが  
蔓延し罹患者五〇パーセ  
ントという好成绩を示  
してダイナマイトの爆音  
にもビクともしない猛者  
連の心膽を寒からしめた  
が、山口縣や北九州にも  
伝染病の親玉コレラが發  
生し最近では全国的に日本  
肺炎が流行した  
昔から戦後には悪疫の流  
行が附き物と云われてい  
るが、折角原子爆弾から  
命びるのをした矢先に傳  
染病のお土産は迷惑千萬  
だ  
熊本市の血清化学療法所  
ではコレラの予防注射用  
としてワグチンの材料が  
一人當り一CCとして七千  
萬人分を蒸溜水三百五十  
石、食鹽五百五十キログ  
と概算したことがあつた



参議院議員 石原幹市郎	衆議院議員 關内正吉	衆議院議員 松井政一	前衆議院議員 齋藤晃	縣會議議員 蓮沼龍一	縣會議議員 小野義巳	縣會議議員 大井川正	縣會議議員 渡邊勝治	小名浜町長 水野政次郎	同 助役 長瀬國三郎	同 収入役 野崎昇太郎	同 市長 鈴木辰三郎	同 助役 阿部治英	同 収入役 根本益利	湯本町長 松本久吉	同 助役 内山吉五郎	同 収入役 仲里勝利	江名町長 中田佑一郎	同 助役 伊藤正平	同 収入役 吉田政吉	泉村長 吉田勝記	同 助役 渡邊義一	同 収入役 草野喜一	鹿島村長 八代義定	同 助役 山口義	同 収入役 鈴木光慶
-------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	-----------	------------	-----------	------------	------------	------------	-----------	------------	----------	-----------	------------	-----------	----------	------------



19世紀の前半は、原子爆弾の洗禮によつて戦争から平和への祈りを捧げたがその後半の第1年目である1951年もまた朝鮮動乱のために20億の世界民族は再び人類の悲劇を痛切に感じているであらう

# 新春

## あの町この村 NO.1物語 ①

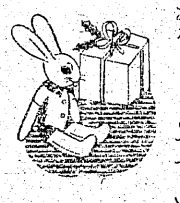
**【弓道】**  
日素富緒議長、昭和十九年五段に昇進、本年の縣下総合体育大会に一位にて優勝、續いて秋の名古屋に於ける國体へ白河市の高橋氏、福島の中山忠士氏等三名と共に縣代表として参加、第二次予選に惜敗されたが、國体でなく個人ならば當然優勝圏に入られたものと参加者一同が認め、福島のため、武蔵の氣を吐かれた事がある同氏は弓道は即究道であると前置きして、禪味溢れる弓道の身心の構を左の様に語つて居る。

何事も一藝の奥義を究める事は容易の技ではない、弓道に精進する際無我の境地に達する事は精神修養となり、處世の道に教えられる点は誠に多い、竹林派には弓道の八則と言つ事を教えている。

才の時、日置流より分派した竹林派に入門され、同年七月武蔵會初段となり、連三ツの曲、五胴を整え、日月心、曲を定めて、雪見付け、残る力味に、弦道の能三連剛無理比人双、五部の結びに、十重の伸、鶴起廻しの心地良き

**【圍碁】**  
南海館主人 松村 源義氏  
松村さんは二十才の時に碁を初め、當時は三度の食事は勿論放棄も放擲して無中に成つたとの事だが、それも一時の事で趣味は趣味、家業は家業として、五十才で初段、昨年縣出身の宮下七段の推薦にて日本棋院二段の免許を與えられたと拜聞している。

碁盤に向つて面白く、うより苦しいと言われるあたり、そのガルの眼縁有段者でない、松村さんに續いて自性院竹村智通師、町後、長瀬助後、御代定吉の諸氏がある。(つづく)



### 御挨拶

原子エネルギーは自己を發見した第二次世界大戦に終止符をつけ、新世紀をもたらした。ここに國家の闘争といふ、階級闘争といふ、三世に亘る個人資本主義と末路をも未だ半世紀の行程にも及ばない國家資本主義の鋭鋒も、はたまた有政府無産主義も、無政府共產主義も一切が過去の遺物となつた。

しかも原子エネルギーは終戦後數年に於て月世界に文化の軌道を懸け、なお木星、金星に航線を描かんとしている、それによりも我が祖國、解放された日本は政治界といふ、經濟、思想界といふ、凡ゆる方面に於て暗黒模索の極相を呈している。

ちよと牛尻に群がる蠅の如く、古拙に騒ぐ蛙の如く、春の猛獸類の如く非文明時代の遺骸に後戻りをして右往左往し暗夜の衝突を演じつつ如何なる時代にも見られなかつた混沌と狂亂を呈している。

しかも愛世客の仙道を古へ尋ねる世が治まれば進むれば進むほどぞと云ふ、いわゆる聖中の和と云う者もあるが罪惡を自分の罪惡と思ひ、萬人の不幸を自分の不幸と思ひ私に於ては清に安んじ和を樂しむことが出来ない。

だから如何なる主義、如何なる制度の下に於ても實地公平に萬人が富の分配を待 萬人が人権の自

由を得られない場合は即ち最初一人、最後一人までが、富と權力から解放されて貧富、強弱、階級、種族の差別がなくなり、平等に萬人自由の福利を得られるまでは如何なる社會、如何なる權力とも抗争し救助するの私の生命である。しかも現下の階級として講和の階段と獨立の階段と平和克復の階段との三重の難關に直面し九牛の一角にも過ぎない狭隘な國土に八千萬の同胞がひしめき合つて、新しき天、黎明の朝をけよう望んでいる、かような複雑な時代相を傍觀することが出来ず淺學菲才の身をもつて困難至極な新聞事業に生命と私財を投じてけつ起した次第である。

そこで愛世客及び一般大衆に訴えたいのは元社會黨員であつた私が今日無色透明な公正中立に轉向したは何のためであるかという事である。

物理学といふ、社會學といふ、左右、中、正、反、合の原理原則をもつて進むのが事物の現象であるが、我が國の政治運動といふ、文化建設といふ左黨は行き過ぎ、右徒は及ばざる傾向があるので私は緩衝作用を興えるのが自分の責任であり新聞人の本領であると自負するからである、此の点を一般によく了解され御鞭達と御挨拶を與えられんことを冀う次第である。

磐城日日新聞社長 長瀬 芳郎

### 社員のことば

郷土民の啓蒙運動と地方文化の向上及び産業經濟の再建に寄與する目的を以つて磐城日日新聞社が創立されて以來、月を閲する事五ヶ月、号を重ねる事百二十一号に及んだが、その間の艱難辛苦と苦悶は六鷹の時間、五濁の空間、阿修羅の世間との連続的死闘であつた然しながら吾々の誠意と信念、堅志と勇氣、熱情と努力の犠牲性線に如何なる隘路も打通され吾々には空氣と水の如き宇宙の、社會的窮通の鋪道を築進して来た、道しかるに吾々の事業は任重く、道遠しの感あり、願くば萬歳を踏み千山を抜くが如き強力でして卓抜なる補導者を待望する念もまた日

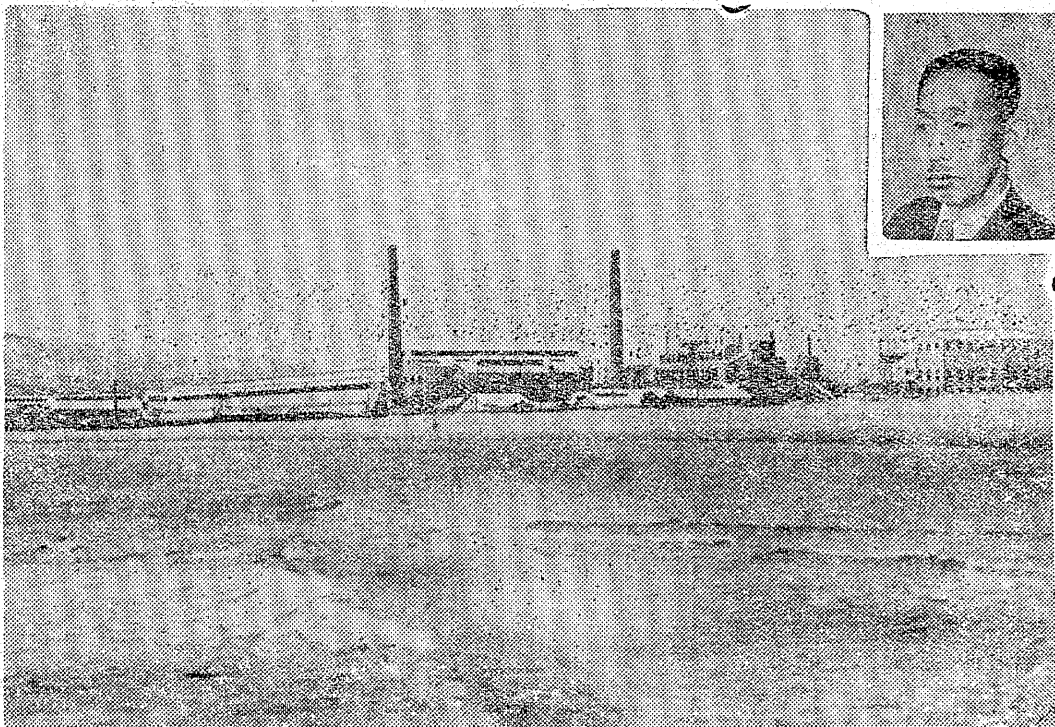
を重ねると共に深刻の度を加えて来たが幸いにして吾々の創造的意見、學究的態度、直実なる力と奮闘精神なき、死運道的生活に一大光明を發見した、それは町當局はじめ町會議員、知名有志、各種團體、銀行商社、其の他あらゆる階層の支持を得たことである、爲に吾々の信念は一層鞏固となり勇氣は倍加し、郷土の諸賢が背後より見守つて戴けば磐梯山を抜んで猪苗代湖を越ゆることも、さして難事ではないと決意を新たにしている次第であるが願くば將來共格別の御援助を賜わらんことを

磐城日日新聞社  
主筆兼編集長 高瀬 澄  
外社員 一同



<p>湯本町議會 議長 若松 修 副議長 野村 三 小高 隆三 飯島 隆三 谷本 隆三 岩間 隆三 小高 隆三 飯島 隆三 谷本 隆三 岩間 隆三</p>	<p>小名浜町議會 議長 菅原 彰 副議長 長瀬 芳郎 馬場 貞 小佐野 貞 小野 貞 飯島 貞 近藤 貞 鈴木 貞 高木 貞 江崎 貞 小林 貞 立花 貞 高木 貞 金澤 貞 高木 貞 小野 貞 坪内 貞 村上 貞 佐藤 貞 比佐 貞 山田 貞 草野 貞</p>
---	--

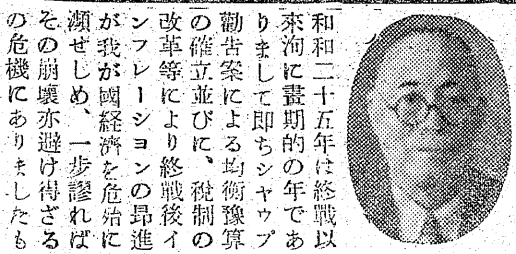
<p>小名浜警察署 署長 鈴木龍之助 署員 一同</p>	<p>平市警察署 署長 宇佐見吾一 署員 一同</p>	<p>湯本町警察署 署長 菅家徳壽 署員 一同</p>	<p>江名町警察署 署長 鈴木直 署員 一同</p>	<p>東北海運局小名浜支局 支局長 今野善久 次長 門馬武雄</p>	<p>小名浜港務所 所長 浜田正軌</p>	<p>小名浜港工事務所 所長 青島茂一</p>	<p>福島縣統計調査事務所小名浜出張所 所長 佐川 濟</p>	<p>小名浜郵便局 局長 三浦宗長 庶務會計課長 遠藤武三 郵便課長 猪股峯二 貯金保健課長 金成貞一</p>
--------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	------------------------------------	--	---------------------------	-----------------------------	-------------------------------------	---



【写真説明】小名濱港より見たる東北随一を誇る日本水素工業株式会社小名濱工場全景人物は同社社長野村精二氏

# 一九五〇年の回顧

平市長 鈴木辰三郎



和二十五年は終戦以來河に畫期的の年でありまして即ちシャッフルの確立並びに、税制の改革等により終戦後インフレーションの昂進が我が國經濟を危殆に瀕せしめ、一步譲ればその崩壊亦避け得ざるの危機にありましたも

のを、連合國の適切な御指示により一應いは終息し戦後始めて安定的緒につき經濟統制も漸次撤廢せられ、正當軌道に乗らんとしつゝありまして、これは眞に御同慶に存する處であります。然しながら、反面この變革期による余波を被つた各種産業に於ける經營必ずしも容易ならざる事は既に各位の御承知の如くであり、我が國の國際經濟の正復、國際

引續き今取り掛りつゝある各事業の完成を期し、尙學校々舎の修繕及び増築住宅問題の解決を急ぎ、新に平野北口開設等の計畫の實現を策し觀光、産業、文化の振興發展を以つて市民各位の福利を増進し又一面負擔の軽減を計り度いと存するものであります。之れ亦關係各位の御協力を切望して已まない次第であります。

願れば、本市は昭和十二年六月一日市制布告されて以來、先人粒粒辛苦の經營を過般の戰災により一朝にして烏有に歸し、爾來六年今日東北稀有の復興を示しましたことは、之偏に市民各位の熱烈なる愛市の一念によるものと表す次第であります。尙この際特におし添えたいことは、末だ異郷に在りまして日夜望郷の想いに心から居られ居る方々故國に於て歸國を一日千秋の想いで待ち詫びておられる家族の方、或は戦争により一家の支柱を失ひその日の生活にも困窮せられておられる人々に救済は一刻もゆるがせにすることの出来な

本年は一段とこの方面に力を致したいと存するものであります。終りに臨み當局者の意を諒とせられまして本年も絶大の御援助、御鞭撻賜わらんことを切望いたしました。昭和二十六年初頭の挨拶と致します。

本紙は二日と三日を休刊し四日付より發行します。

## 謹賀新年

<p>石城地方町村會</p> <p>會長 鈴木榮一 副會長 高木武一郎 副會長 草野寅一 事務局長 橋本寅一</p> <p>泉村 長 吉田勝記 渡辺村 長 永山定秀 植田村 長 渡辺國之助 山田村 長 野田三郎 錦町 長 高木武一郎 勿來町 長 小松久 上遠野村 長 荒川正久 入遠野村 長 酒井正久 川部村 長 鈴木正久 田人村 長 澤田正久 夏井村 長 青木半次郎 高久村 長 鈴木正久 豐間町 長 中家健一 鹿島町 長 八代義定 小名濱町 長 水野政次郎 磐崎村 長 太田憲太郎 湯本町 長 松本久吉 内郷町 長 山崎辰吉 赤井村 長 鈴木榮一 好間村 長 鈴木榮一 永戸村 長 柴田七吉 澤波三坂村 長 永山繁義 草野村 長 坂本惣次郎 大浦村 長 阿部崇次郎 四倉町 長 西澤乙順 大野村 長 花澤乙順 上下小川村 長 草野寅一 川前村 長 新妻寅一</p> <p>福島縣水産試験場 場長 菅野健一</p> <p>小名濱農業協同組合 組合長 長瀬誠一 副組合長 村上重一</p> <p>玉川農業協同組合 組合長 駒木根忠三 外職員 一同</p> <p>福島縣家用自動車組合 組合 小名濱支部</p>	<p>日本水素工業株式會社 社長 野村精二郎 電話 五五五五-一〇〇〇-一 四三二一九</p> <p>小名濱臨港鐵道株式會社 社長 竹川久仁 專務 浦田文二郎 取締役 電二二三〇 二七二〇</p> <p>小名濱漁業協同組合 組合長 三代義勝 電話 三三五</p> <p>小名濱機船底良網漁業協同組合 組合長 田島繁夫 電話 二二六五 五九</p> <p>日本冷蔵株式會社 工場長 八嶋正太郎 電話 二六二八 二二八</p>	<p>小名濱町内校長會 社長 鈴木英雄 電話 一七一九</p> <p>小名濱銀行團 あけましてお目出度う</p> <p>觀音丸 齋藤誠吾 電五六 三王丸 比佐庄太郎 電二一三 八崎丸 瀧内與平 電二四四 惠比壽丸 小野義男 電二一五 嘉望丸 小野源右門 電七八 賢盛丸 阿野漁業部 電一六〇 阿野漁業部 電一六〇 イ漁業部 電一六三 千代丸 馬上増次郎 電二七一 天洋丸 宮野靜翁 電三四九 力ネ又漁業部 電三四九 眞盛丸 比佐雅英 電六一 大高丸 高津忠治 電一七九 高橋漁業出張所 電一三〇 共運丸 田澤留五郎 電三三二 天榮丸 草野増太郎 電二二四</p>
--	---	---

**磐城座**

館主 小野直千賀  
支配人 松本隆夫  
電話 一五四

**小名濱頭株式會社**

社長 鈴木英雄  
電話 一七一九

**小名濱銀行團**

あけましてお目出度う

觀音丸 齋藤誠吾 電五六  
三王丸 比佐庄太郎 電二一三  
八崎丸 瀧内與平 電二四四  
惠比壽丸 小野義男 電二一五  
嘉望丸 小野源右門 電七八  
賢盛丸 阿野漁業部 電一六〇  
阿野漁業部 電一六〇  
イ漁業部 電一六三  
千代丸 馬上増次郎 電二七一  
天洋丸 宮野靜翁 電三四九  
力ネ又漁業部 電三四九  
眞盛丸 比佐雅英 電六一  
大高丸 高津忠治 電一七九  
高橋漁業出張所 電一三〇  
共運丸 田澤留五郎 電三三二  
天榮丸 草野増太郎 電二二四

謹賀新年

江名町議會 常磐炭礦勞組本部 湯本支部 小名濱町婦人會 小名濱町青年會 小名濱支店 常磐無線 小名濱中央青果市場

藝妓家 鳴子 吉田屋旅館 若葉館 千代本 鈴本 英の家 紅大 萬里莊 吉田屋旅館

三崎組 太田勝康 深山組 日星製作所 野口工務店 小名濱出張所 富ヶ浦病院 小兒科 草野醫院 高木醫院 渡邊醫院 石井醫院 鹿島村議會

小名濱町消防團 常備消防部長 第一分團長 第二分團長 第三分團長 第四分團長 第五分團長 第六分團長 時 大原屋 福島屋 本田美容室 美のり美容室 紅 貨席大 すすき

古港 長生堂藥局 米 資生堂 長山電機商會 塩屋商店 國華堂 菓予舖

1951年の新春に放つ! 磐城座の豪華陣! 御期待下さい

31日—2日 眞珠夫人 池部三枝子 高峯三枝子 春日 小杉 柳 寛子

3日—4日 二本立陣營 兇弾 本林の石松 笑いの猛襲!! エノケン大暴れ お馴染の金語樓共演

5日—7日 東京の門 越路吹雪 澤村昌子 村田知英子

8日—10日 鬼あざみ 長谷川一夫 山根壽子